

キリストの聖体 2020.6.14

イエスの肉、イエスの血

ヨハネ6章 51-58節

「わたしは、天から降って来た生きたパンである。このパンを食べるならば、その人は永遠に生きる。わたしが与えるパンとは、世を生かすためのわたしの肉のことである。」

それで、ユダヤ人たちは、「どうしてこの人は自分の肉を我々に食べさせることができるのか」と、互いに激しく議論し始めた。イエスは言われた。

「はっきり言うておく。人の子の肉を食べ、その血を飲まなければ、あなたたちの内に命はない。わたしの肉を食べ、わたしの血を飲む者は、永遠の命を得、わたしはその人を終わりの日に復活させる。わたしの肉はまことの食べ物、わたしの血はまことの飲み物だからである。わたしの肉を食べ、わたしの血を飲む者は、いつもわたしの内におり、わたしもまたいつもその人の内にいる。生きておられる父がわたしをお遣わしになり、またわたしが父によって生きるように、わたしを食べる者もわたしによって生きる。これは天から降って来たパンである。先祖が食べたのに死んでしまったようなものとは違う。このパンを食べる者は永遠に生きる。」

説教

イエスがわたしの「肉」を食べなさい、わたしの「血」を呑みなさい、というとき、パウロの解釈「キリストがわたしの内に生きておられる」を思い起こしてください。

生きているのは、もはやわたしではありません。キリストがわたしの内に生きておられるのです。ガラテア 2:20

子供向けアニメのアンパンマンは困っている人を助けることを仕事にしています。困っている原因がバイキンマンのときはアンパンチで救いますが、お腹がすいて泣いている人には自分の顔の一部をちぎって与えて救います。だ

からといって泣いている人がアンパンマンにはなりません。

聖餐式でいただくパンとワインはパウロの解釈でいえば、わたしたちの内で生きているキリストの証しになります。パンとワインによってわたしたちの内にキリストを迎え入れることができるようになります。

ふつうに考えれば、パンがキリストの肉やワインがキリストの血であるわけではありません。でも宗教のことばでこう告げるとき、パンは肉にワインは血に変わります。「わたしの内に生きるキリスト」の信仰を体感することができます。これがキリストの死、復活、昇天ののちに続けてきたキリスト教の礼拝であり信仰です。礼拝とは何か、いろいろ議論もあり意見も分かれるでしょうが、礼拝の核は聖体拝領であることに間違いはありません。

「洗礼を受けていない人、パンとワインを受けるのにふさわしくない人は食べないで」と牧師が注文をつける聖餐式もあります。日本のおおくのプロテスタント教会はこのような注文がつきます。十人十色といいますが、教会によって考え方が違っていいのですが、セカンドチャーチではこのような注文はつけません。

パウロがあきらかにした「わたしの内に生きるキリスト」の高みを目指してわたしたちは、つつしんで聖体を拝領しましょう。
